

# 5



その他の災害、  
そのときどうする？



大雨が降りそう・  
降ってきたら  
70ページ



その他の災害が  
起こったら  
80ページ



# 1 大雨が降りそう・降ってきたら



大雨が  
降りそう？

風水害は、事前に予測できる災害です。気象情報、台風に関する情報、避難に関する情報などに注意して、備えましょう。

2 事前に備えておく

74ページへ

1 情報に注意する

72ページへ

3 早めに避難する

76ページへ

## ① 情報に注意する

気象庁から情報が発表された場合、強風や大雨に関する最新の情報や区から発令される避難情報などを確認する必要があります。

### 情報収集・把握

気象庁が出す「防災気象情報」や、区が出す「避難に関する情報」に注意して、つねに最新の情報を入手・確認し、行動しましょう。

情報の入手先は32ページへ

#### 防災気象情報(気象庁発表)

対象となる現象や災害の内容によって、6種類の特別警報、7種類の警報、16種類の注意報があります。

情報の種類	発表のタイミング	種類
特別警報	重大な災害の起こるおそれが著しく高まっているとき	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
警報	重大な災害が起こるおそれのあるとき	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
注意報	災害が起こるおそれのあるとき	大雨、洪水、強風、高潮、雷など16種類

高危険度  
低

#### 災害発生の危険を知らせる情報

注意報・警報に加え、身近なところで風水害の発生の危険性が高まっている時には、次のような情報が発表されます。

- **土砂災害警戒情報**  
大雨警報(土砂災害)が発表されているときに、土砂災害の危険性が高まった場合、発表する情報
- **記録的短時間大雨情報**  
大雨警報が発表されているときに、土砂災害や洪水の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量であることを知らせるために発表する情報

#### 避難に関する情報

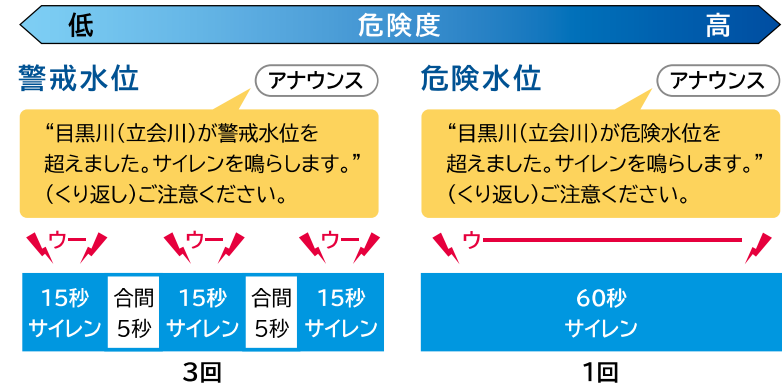
区では、災害が発生する危険性が高まった場合に、対象区域を示し、警戒レベル3~5の避難に関する情報を発令します。発令されたら、すみやかに必要な避難行動をとりましょう。

警戒レベル	避難情報等	取るべき行動
警戒レベル 5	災害発生情報※1 ※1 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。
警戒レベル 4 全員避難	避難勧告 避難指示(緊急)※2 ※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令	速やかに避難先へ避難しましょう。 避難場所までの移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
警戒レベル 3 高齢者等は避難	避難準備・高齢者等避難開始	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。
警戒レベル 2	洪水注意報 大雨注意報等	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル 1	早期注意情報	災害への心構えを高めましょう。

高  
危険度  
低

#### サイレンによる情報伝達

区では、大雨などで目黒川・立会川の水位が上昇し、警戒水位・危険水位に達した場合には、サイレンでお知らせしています。



# 訂正

令和3年5月20日の災害対策基本法の一部改正に伴い、以下①、②の修正をお願いいたします。

## ①73ページ

避難に関する情報を下記の文言および図に差替えをお願いします。

### 避難に関する情報

区では、災害が発生する危険性が高まった場合に、対象区域を示し、避難に関する情報を発令します。発令された場合は速やかに必要な避難行動をとりましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難に関する情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

## ②79ページ

(改正前)危険を感じたら、避難勧告などの発令前でも自主的に避難しましょう。

(改正後)危険を感じたら、避難情報などの発令前でも自主的に避難しましょう。

※防災に関する最新の情報は品川区のホームページをご確認ください。

品川区ホームページ

<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

## ① 大雨が降りそう・降ってきたら

## ② 事前に備えておく

気象情報などに注意しながら、状況が悪化する前に、早めに準備しましょう。

### 基本

- 自宅が危険な場所なのか、あらかじめ確認する。
- 自宅が安全な場合は、不要・不急の外出は控える。
- 被害が生じないように、雨や風が強まる前に備える。
- 危険がおよぶおそれのある場所から離れる、近づかない。



ベランダや庭などにある植木鉢や物干し台などを屋内へ入れる。

雨戸などを閉め、窓ガラスを守る。カーテンを閉め、ガラスの飛散を防ぐ。

自転車やバイクはカバーをはずし屋内へ入れる。

排水溝や雨どいにある落ち葉などを取り除き、できるだけ水はけをよくする。

### 屋外にいる場合は



- 看板や瓦などが飛んでくることが、街路樹や電柱などが倒れてくる可能性を考えながら、安全な場所へ移動する。



- 水路や排水溝などは水量が増えて危険になるため近寄らない。
- マンホールのふたがはずれることがあるので、足元に注意する。



### 地下にいる場合は



- 水が流れてきてからの移動は難しいため、危険を感じる前に地上の安全な場所へ移動する。
- 地上から水が流れ込まないように、土のうや防水板を設置する。

※土のうは、目黒川・立会川沿いを中心に約50カ所に設置しています。設置場所は、区のホームページから確認できます。



防水板設置の助成は87ページへ

### 海や川などの近くにいる場合は



- 風にあおられて海や川などに転落しないよう、できるだけ早くその場から離れる。



- 上流で降った雨によって、下流で急激に増水することがあるので、できるだけ早く川から離れる。
- 警報が聞こえたら、すみやかに避難する。



### ③ 早めに避難する

災害が発生する危険性が高まった場合、または危険を感じた場合は、自らの命は自らが守るという意識を持って避難しましょう。

**基本**

- 危険だと感じたら自らの判断で避難する。
- 暴風時や夜間などで避難できなくなる前に、早めに避難する。
- 想定を上回る事象が発生することも考慮し、より安全な場所へ避難する。



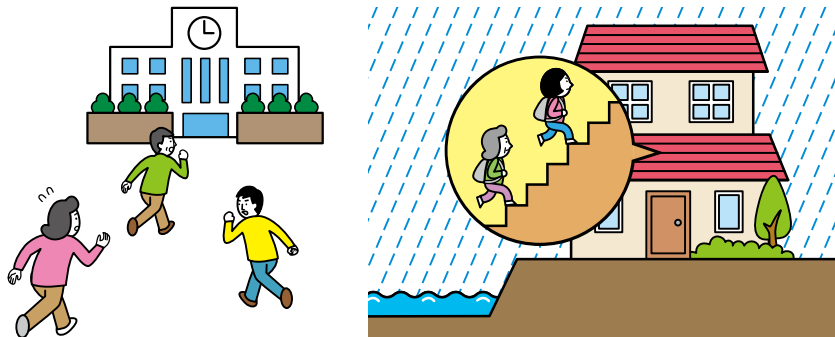
### 避難する場所

河川の氾濫による浸水のおそれがある場合と、土砂災害のおそれがある場合では、避難する場所も異なります。避難に関する情報が発令されたら、すみやかに必要な避難行動をとりましょう。

**POINT**

- 早めに、最寄りの避難場所に避難する。
- 避難場所までの移動が、かえって危険な場合は、近隣の安全な場所に避難する。
- 近隣の安全な場所への避難も危険な場合は、建物の中で安全確保する。

※避難に関する情報がない場合でも、台風等の状況を踏まえて、自宅での滞在に不安を感じる方を受け入れる施設として、「自主避難施設」を開設します。



### 浸水のおそれがある地域の場合は

- 早めに、最寄りの避難場所に避難する。
- 避難場所への避難がかえって危険な場合は、建物の中で「垂直避難」する。

**NOTE!**



#### あなたの自宅の浸水の危険性は？

自宅周辺に浸水の危険性があるかを確認し、避難する場所を記入しましょう。

防災地図> 浸水ハザードマップ 参照

防災地図> 多摩川洪水ハザードマップ 参照

河川氾濫による 浸水の危険	浸水： 有・無
	※有の場合は… 浸水深： _____ m
避難する場所	

### 高潮のおそれがある地域の場合は

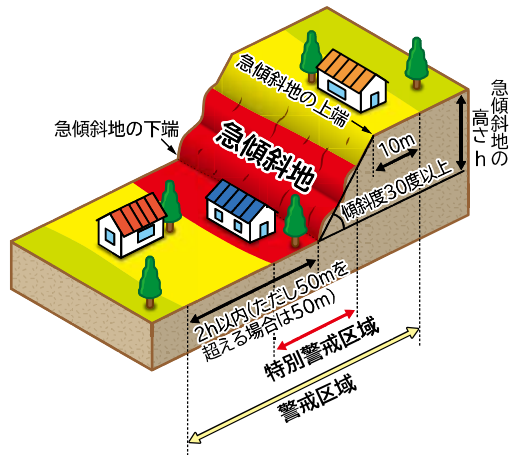
高潮は、台風などにより強い低気圧が接近した際に、波が高くなると同時に海面の水位も上昇する現象です。満潮時に発生すると、被害が発生するおそれがあります。

高潮のおそれがある場合は、避難場所へ避難しましょう。避難場所への避難が危険な場合は、近隣の安全な場所もしくは、建物の中で「垂直避難」しましょう。立会川周辺では、当分の間、高潮の可能性が高い状態が続きますので、特に注意が必要です。

防災地図> 高潮浸水ハザードマップ 参照

がけ崩れのおそれがある地域の場合は

- がけ崩れの警戒区域にお住まいの方は、避難場所へ避難する。
- 風雨が強まってからの移動は危険を伴うので、可能な限り、早めに避難を開始する。
- 避難場所までの移動が危険な場合には、少しでも早く、近隣の安全な建物や屋内の安全な場所に避難する。



土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域

品川区では、「土砂災害警戒区域」として50箇所、「土砂災害特別警戒区域」として38箇所の区域が、東京都により指定されています。

土砂災害警戒区域		土砂災害避難場所
品川地区	北品川三・五・六丁目、南品川六丁目 の一部	品川学園 第三日野小学校
大崎地区	東五反田一・三・四・五丁目 の一部、 上大崎一・三・四丁目 の一部	上大崎シルバーセンター 立会小学校
	西五反田三・八丁目 の一部	
大井地区	東大井三・四丁目 の一部	
八潮地区	八潮五丁目 の一部	

※詳しくは、ホームページもしくは  
防災課(03-5742-6695)へお問い合わせください。



POINT

危険を感じたら、避難勧告などの発令前でも自主的に避難しましょう。

NOTE!



がけ崩れの危険性は？

自宅周辺にがけ崩れの危険性があるかを確認し、避難先を記入しましょう。

土砂災害の危険	危険 : 有 ・ 無
避難場所	

がけ地を所有する方へのお願い

がけ崩れ防止のため、日頃から下記のようながけ・擁壁の点検や手入れをお願いします。

がけ・擁壁安全化支援事業は87ページへ

- がけ面に芝などを植え斜面を保護する。
- がけ上の排水溝の落ち葉などを掃除する。
- がけのひび割れや擁壁上部の塗装面のひび割れを点検する。
- 擁壁の水抜き穴の内部を清掃する。
- 擁壁などに異常があれば修理補修する。



## 2 その他の災害が起こったら



### 1 雷・竜巻による災害

雷や竜巻は短時間で大きな被害をもたらします。雷注意報、竜巻注意情報などの気象情報、予報や空の様子にも注意しましょう。

#### 安全の確保

雷、竜巻のおそれがあるときは、ただちに安全を確保しましょう。



- 頑丈な建物や自動車の中などの安全な場所に避難する。
- 開けた場所にいる場合は、電柱や高い木の近くから離れる。
- なるべく姿勢を低くし、持ち物は身体より高くないよう気をつける。



- 頑丈な建物の窓のない部屋などで、身を守る。
- 雨戸、窓やカーテンを閉め、窓から離れる。
- プレハブなどの仮設建築物、太い樹木なども倒壊したり、飛ばされてしまうおそれがあるので離れる。

### 2 火山災害

火山が噴火すると噴石、火砕流、火山泥流などが発生します。品川区では、富士山が噴火した場合に2~10cm程度の降灰のおそれがあります。

#### 降灰への対応

噴火した場合には、降灰対策をしましょう。

- 呼吸によって吸い込むのを防ぐため、マスクをする。
- コンタクトレンズははずし、眼鏡を着用する。
- 皮ふに触れないようにする。

### 3 大規模事故

自然災害の他にも、大規模な火災や危険物事故、航空機や鉄道などの大規模事故が発生する可能性があります。

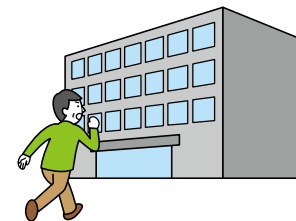
### 4 武力攻撃災害

自然災害や事故以外にも、弾道ミサイルや航空攻撃による武力攻撃災害が起こる可能性があります。すみやかに避難行動を取りましょう。

#### 安全の確保

ミサイルが国内に落下するおそれがある場合には、防災行政無線や緊急速報メールなどを活用して緊急情報をお知らせします。

- 近くの頑丈な建物の中か地下に避難する。
- 近くに建物がない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。
- 屋内にいる場合、窓から離れるか、窓のない部屋に移動する。



#### ミサイルが落下した場合は

- 屋外にいる際には、口と鼻をハンカチで覆い、現場からただちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。
- 屋内にいる際には、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。



#### J-ALERT(全国瞬時警報システム)

弾道ミサイル情報、緊急地震速報、津波情報など、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を国から発信し、人工衛星を經由して品川区の防災行政無線を自動起動させ、瞬時にサイレンや音声で情報伝達するシステムです。